日　産　新　聞　　第3種郵便物認可

途上国の水道管洗浄 支援

佐野の中里建設 JICA事業採択

独自技術に評価 来春インドネシアへ

県内を中心に土木建築や水道工事を手がける中里建設（佐野市）が、インドネシアで水道管の洗浄事業に乗り出す。途上国の課題解決に貢献するビジネスを支援する、国際協力機構（ＪＩＣＡ）の「案件化調査」に、県内で初めて採択された。伸縮するウレタン製のボールを水圧で管内に流して摩擦で汚れを落とす独自の技術が評価された。

太いホースに吸い込まれた直径約20㌢の赤い洗浄器具「アクアピグ」が、同社近くの実験場で縦横に走る透明のパイプの中を動き始めた。直径約7・5㌢から約15㌢まで変化する管の太さに応じて伸び縮みし、内側に密着してギューッとこするように動く。中里聡社長(54)は「伸縮する柔らかさと汚れを取る強さを兼ね備えるため、素材や表面の塗装などを400種以上試しました」と言う。

同社は1920（大正9）年創業で、主に役所の土木建築事業を請け負ってきた。公共事業の予算が削られる中で、上水道施設メンテナンスの事業を開始。水道管を効果的に洗うため、圧縮復元力の高い発泡ウレタンを使ったアクアピグを開発した。

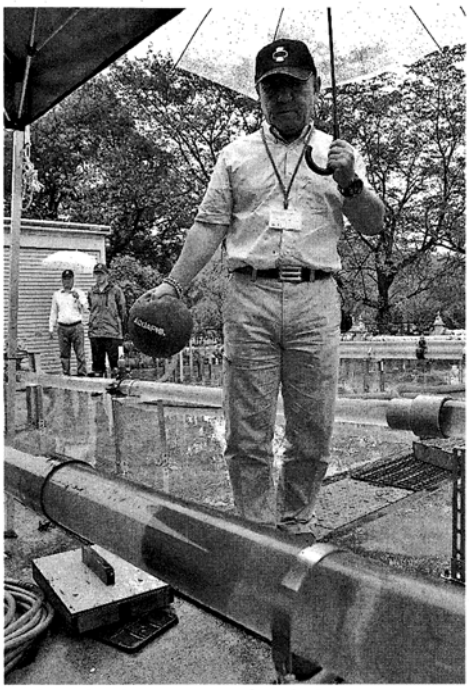
管の太さの変化に対応しつつ、一度に約3㌔の長さまで洗浄できるため、コストの大幅削減に成功。2012年から国内各地で実績を重ねてきた。

アクアピグの評判は海外にも広まり、水道水の水質悪化に悩む東南アジアからも引き合いが来るようになった。その中で、同社がインドネシアのブカシ市で準備を進めてきた企画がＪＩＣＡに認められ、事業化の下調べをする「案件化調査」に選ばれた。

来春には現地の水道管内の状況や断水可能な時間を調査し、来年度中に洗浄事業を始める予定だ。調査資金や現地当局との交渉でＪＩＣＡの支援を受ける。技術を伝えて、いずれは現地の人が作業できるようにし、ピグの販売と技術支援に特化する方針だという。同社はもともと水が出ない土地に井戸を掘る事業から始まったという。中里社長は「100年を経て、遠い海外の水を守る事業を手がけられることは感慨深いです」と話す。

ＪＩＣＡの中小企業海外展開支援事業は2012年度に始まったが、県内ではこれまで「基礎調査」の1件しか採択がなかった。相談体制が手薄だったことが一因だという。ＪＩＣＡの担当者は「栃木には高い技術を持つ中小企業が数多い。海外に目を向けてもらって途上国支援の橋渡しができるよう、体制を強化したい」と意気込んでいる。

（古沢範英）



水圧を受けてパイプの中を進むアクアピグを見守る中里聡社長＝佐野市栃本町

平成最後 流鏑馬駆け抜けた

となる儀式で、沿道を埋め尽くした観衆は疾走する馬上から射られる鏑矢に、天下太平や五穀豊穣の願いを乗せた。

まず、総奉行から命を受けた紫色の直垂をまとった日記役が「流鏑馬はじめませ」と大きな下知を下す。射手が甲高い声で「おう」

夜間の安全 反射材着用

県警・カンセキ普

歩行者に安全の材を身に着けてと、県警はホーム「カンセキ」と連射材の普及活動をこれからの時期はくなるため、常に持ち歩くよう呼びる。

カンセキ各店のナーには、たすきホルダー型など40射材を用意。最近でも強く発光するのや、日中は目立のなどもあり、様ズに応えられるよているという。

県内では夜間に

で、この日も多くでにぎわった。初馬を見たという愛川秀子さん(69)、子さん(66)の姉妹